

調査型ワンポイント巡検により都市構造を把握する

— 群馬県富岡市街地を事例として —

須賀 伸一（群馬県立前橋商業高等学校）

- 1 対象学年・学級：高等学校第2～3学年、地理選択クラス（群馬県立富岡東高等学校での実践）
- 2 教科・科目：地理歴史科地理B
- 3 対象地域：群馬県富岡市街地
- 4 単元名：「身近な地域の調査」（全5時間）
- 5 単元の目標
 - ①「身近な地域」の調査方法について学ぶ。
 - ②ワンポイント巡検で、富岡市街地の交通量調査・商店街調査を行い、富岡市街地の都市構造を探る。
 - ③夏休みに実施した自分が居住する市町村の各種調査結果について発表し、各市町村の特性について把握する。
 - ④富岡市の工業統計を分析し、群馬県内での富岡市の工業の特性、および工業の変遷について考察する。
- 6 単元の指導計画¹⁾

時	学習内容	学 習 活 動	資 料
①	「身近な地域」の調査方法の学習、ワンポイント巡検の事前指導	・「身近な地域」の調査方法の学習 ・ワンポイント巡検のテーマ・調査方法・諸注意 ・調査のための役割分担決定	教科書 ワークシート
② 本時	ワンポイント巡検	・交通量と商店街の調査 ・調査結果のまとめ	ワークシート
③	ワンポイント巡検の事後学習	・調査結果の発表 ・調査結果の分析とまとめ ・富岡市街地の都市構造の把握	ワークシート
④	自分が居住する市町村の地域調査結果発表	・地域調査の課題に基づき、各自が居住する市町村について調べた結果を発表する。 ・調査結果の地理的背景について理解する。	ワークシート
⑤	富岡市の工業統計分析	・富岡市で盛んな工業業種とその移り変わりについて、統計分析により把握する（富岡製糸場から航空宇宙産業まで）。	ワークシート

7 ワンポイント巡検（本時）の実践

(1) テーマ・目標

富岡市街地の交通量・商店街の現地調査により静態的・動態的なデータを得て分析し、富岡市街地の都市構造を把握させる。

(2) 実践年月日

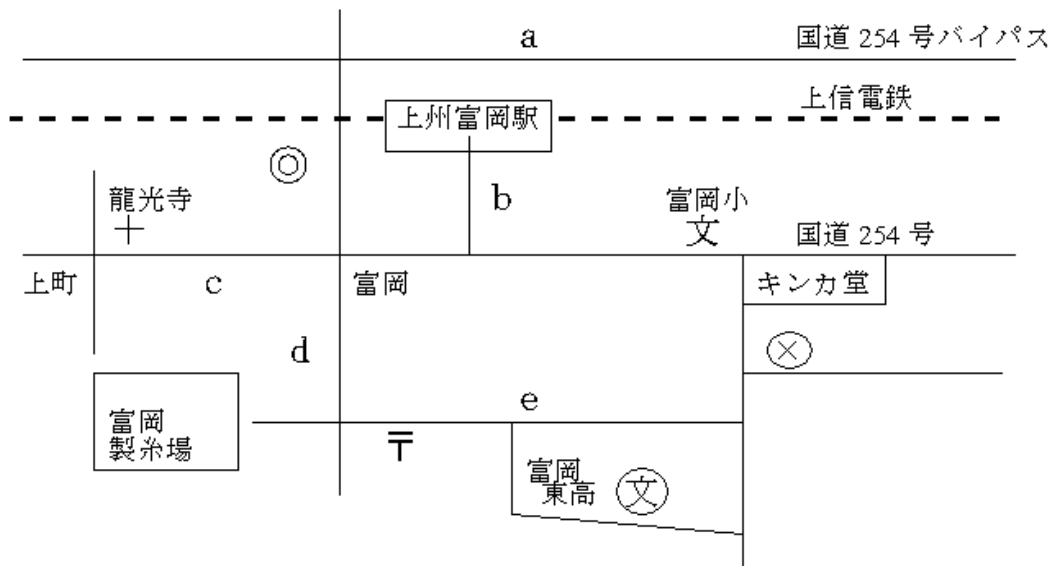
2005年3月16日（市街地の徒歩巡検と交通量の調査、2年生1クラス）

2007年11月9日（交通量と商店街の調査、3年生1クラス）

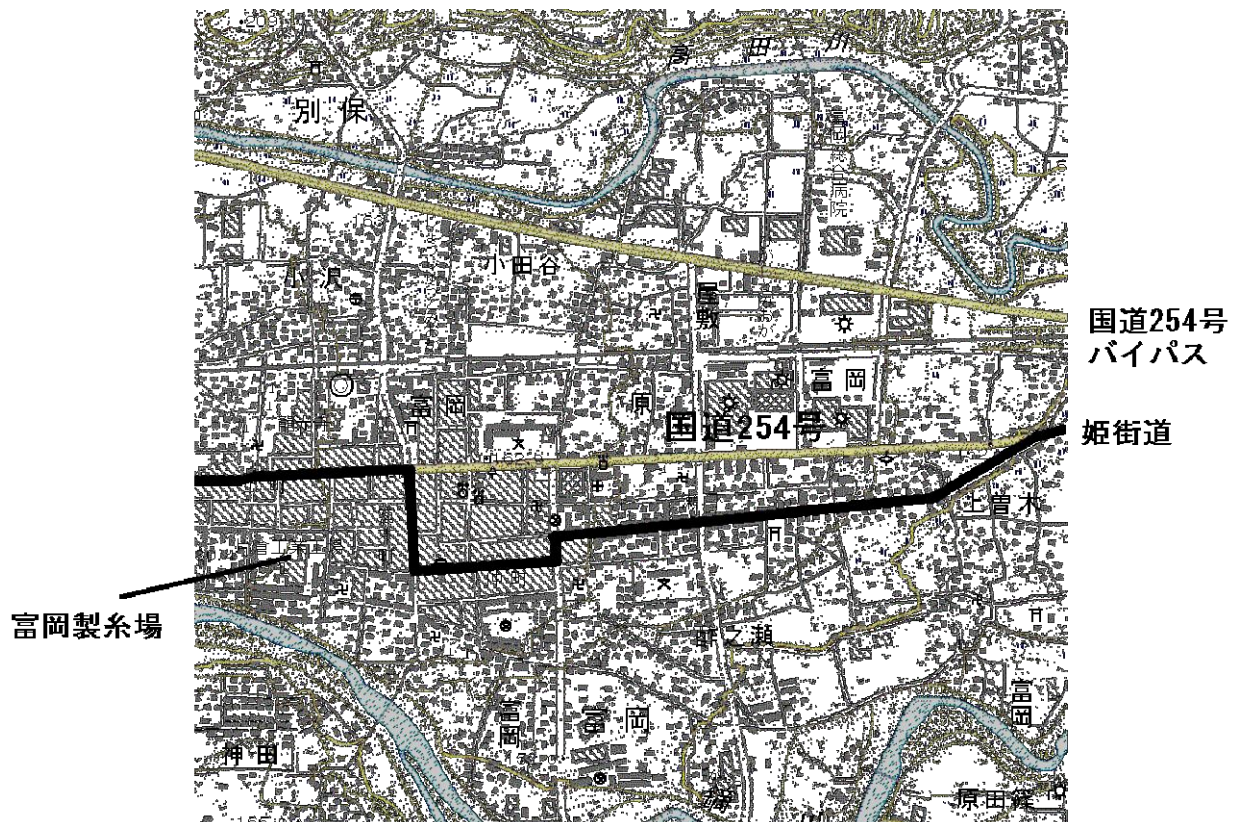
(3) 実施形態

地理選択クラスが1クラスのみであるため、全員で参加した。引率者は、授業者であり実施計画立案者である教員1名である。実施時間は1単位授業時間内の40分くらいであり、残り10分くらいでまとめを行った。

(4) ルートマップ（a～eは、観察ポイント）



地形図



国土地理院 地図閲覧サービス 2万5千分の1地形図「富岡」より

(5) 観察方法

①富岡市街地の主要道路5か所に分かれて、10分間の自動車・歩行者の通行量(数)を2回調べる(2005年は、市街地の徒歩巡検の中での交通量調査だったので、1回のみであった)。

②富岡市街地の主要道路(主要商店街)5か所に分かれて、道路の両側に面している商店・金融機関・一般住宅・その他の建物の数を調べる。また商店のうちで、シャッターを降ろしている(店が閉まっている)店の数も調べる。

(6) 観察ポイントと観察内容

a) 国道 254 号バイパス

新しく、2000 年に開通したバイパスである。広い駐車場を備えたロードサイドショップが建ち並ぶ。

b) 駅前通り

上信電鉄の上州富岡駅から国道 254 号までの、駅前通りである。駅前通りとはいうものの、寂れていて商店もあまりない。

c) 上町通り

富岡市の中心である富岡信号から、上町信号までの間。国道 254 号であり、姫街道（中山道脇往還）とも呼ばれる昔からの富岡の中心通りである。蔵や旧家が残る。

d) 宮本町商店街

富岡市の中心商店街である。国道 254 号と富岡信号で直交する。昔からの姫街道に沿う。

e) 仲町通り

ここも姫街道に沿う昔からの商店街である。蔵や旧家が残る。国道 254 号とは平行する。

(7) 実践の結果

①交通量調査

10 分間の自動車・歩行者の通行量を調べた。2005 年と 2007 年の調査の結果では、次ページの表のとおり、自動車通行量は a のバイパスが圧倒的に多い。次いで c の上町通り（国道 254 号、姫街道）が多い。b の駅前通りは非常に少ない。

歩行者は e の仲町通りと d の宮本町商店街が多く（2005 年の調査日は水曜日で、たまたま商店街が休みだった）、a のバイパスや c の上町通りは少なかった。このことから、バイパスや国道 254 号は自動車中心の道路であるといえることができる。

道路整備からみた富岡市街地の発達過程は、次のとおりである。まず江戸時代には姫街道が整備され、そこに富岡の宿場町が形成された。姫街道が屈曲している理由は、富岡製糸場のある場所にかつて代官所があり、外敵防御のため道路を屈曲させたためと考えられ、屈曲部には寺社を配置してある。明治時代以降、自動車が増えてくると国道 254 号に相当する道路が開通し、その周辺に市街地が発達した。さらに自動車交通量が増加し、富岡を通過する自動車が多くなると市街地を迂回するバイパスが建設され、平成の現在では、バイパスが自動車交通の中心であり、ここにロードサイドショップが進出してきている。このように、富岡市の中心道路は、姫街道・国道 254 号・国道 254 号バイパスと、北側に移動してきた。

②商店街調査（2007 年の調査のみ）

a のバイパス沿いでは商店数は少ないが、商店割合は大きい。また閉店が 0 である。バイパス沿いは最近できた大型店がほとんどであるからである。b の駅前通りでは一般住宅の割合が大きく、商店の割合が小さい。ここは交通量も少ないことから、都市の顔ともいえる駅前通りを整備・発展させることが、これからの富岡市の大きな課題ともいえる。c の上町通りでは金融機関の割合が他地域に比べて大きい。商店の中で閉店の割合も大きい。歩行者が少ないことから、かつては姫街道に沿う商店街として栄えていたのであるが、今は自動車による通過地域となってしまったことが分かる。d の宮本町商店街では商店の割合が非常に大きく、姫街道に沿う昔からの商業の中心地であった。e の仲町通りは、姫街道沿いではあるが一般住宅の割合が比較的大きく、商店街とは言い難い。

③生徒の反応

生徒は、まずは授業時間中に外出できるということで、大喜びであった。授業に変化を持たせるという意味でも、教室内だけではなく、現場に出て実際の都市の様子を調査・観察することの意義は大きい。調査は各地点 3 人ずつくらいで行ったが、協力して仲良くやっていた。40 分くらいで調査を終わりにして、その後教室に戻って調査のまとめを行ったが、各班で調査結果を教え合ったりして、楽しそうであった。生徒から「またやりたい」という声が多く上がった。

次の時間に調査結果の発表を行い、なぜそのような結果になったのかの分析をすると、「おもしろい」「ためになった」という感想を述べていた。生徒は、自ら行った簡単な調査によって、普段自分たちが住んだり何気なく通ったりしている市街地の構造を明らかにすることができ、大きな収穫を得ることができた。

表 富岡市の交通量・商店街の調査結果

2005,3,16 (水) 調査

交通量調査

地点	時間	自動車	歩行者
a	12:55~13:05	264	1
b	12:55~13:05	12	12
c	12:50~13:00	134	10
d	12:50~13:00	53	8
e	12:55~13:05	84	15

電車 (上り) 12:53 (下り) 13:05

2007,11,9 (金) 調査

交通量調査

地点	時間	自動車	歩行者	時間	自動車	歩行者
a	11:59~12:09	291	6	12:15~12:25	231	0
b	12:00~12:10	12	9	12:23~12:33	5	9
c	11:57~12:07	130	3	12:15~12:25	124	2
d	11:58~12:08	60	14	12:25~12:35	50	22
e	11:55~12:05	62	34	12:10~12:20	72	47

電車 (上下) 12:16

商店街調査

建物数

地点	商店	閉店	金融	住宅	他
a	21	0	0	5	0
b	25	7	1	17	2
c	32	14	4	6	6
d	46	11	1	3	0
e	30	7	1	16	9

割合 (%)

地点	商店	閉店※	金融	住宅	他
a	81	0	0	19	0
b	56	28	2	38	4
c	67	44	8	13	13
d	92	24	2	6	0
e	54	23	2	29	16

※商店の中での割合

8 今後の課題

調査を今後も実施し、回数を増やすことで市街地の都市構造をより明確に示すことができる。また、都市開発による変化も知ることができる。特に、富岡製糸場が世界遺産の候補となってからは観光客も増え、都市整備も進んできた。その後の調査を行うと、大変興味深い結果が得られることが予想される。ところが、実施計画立案者である私はその後異動となって富岡東高校を去ることになり、授業で生徒を使って調査をすることができなくなってしまった。残念である。

最終的には富岡市の都市構造を把握し、発展しつつある場所と衰退しつつある地域を探し出し、衰退地域の対策を立てたりして、富岡市の将来計画を考えて提言することが望まれる。

注

- 5時間分の具体的な指導内容やワークシート・解答例・分析などは、次の文献で紹介してある。
 須賀伸一：「地域教材から富岡市の特性を探る」、群馬県高等学校教育研究会地理部会会誌第38号、pp. 21-28、2008. 3。
 須賀伸一：「高校の地域教材を通してみた富岡市の特性」、えりあぐんま第14号、pp. 37-46、2008. 6。